

# ★ 第126回 日本社会分析学会例会プログラム ★

日程：2013年12月21日（土）～12月22日（日）

会場：竹田商工会議所

（〒878-0013 大分県竹田市大字竹田 1920 番地 1 TEL：0974-63-3161 ）

※自由報告の持ち時間は30分（報告20分：質疑10分）です。レジュメや資料は40部程度ご準備ください。報告にてプロジェクター、DVDが使えます。パソコンも共用のものが使えます。

## 12月21日（土）

開 会 12:55

自由報告部会 I（13:00～15:20） 司会：速水 聖子（山口大学）

1. 「九州新幹線は連帯を強めたのか」（20分） 三隅 一人（九州大学）
2. 「現代農村における個と共同性に関する研究」 橋上 実穂（熊本大学）
3. 「過疎農山村における集落組織の変容－集落自治の世代交代をめぐって」  
山根 亮子（熊本大学）
4. 「教育特区における多面的な教育理念の実践と課題」 王 美玲（淡江大学）
5. 「災害脆弱性と事前復興－高知市を事例に」 室井 研二（名古屋大学）

=Coffee Break（10分）=

## シンポジウム（15:30～17:45）

『少子高齢社会のまちづくり－コラボレーションによる新しいまちづくりの形』

司会・コーディネーター：吉良 伸一（大分県立芸術文化短期大学）

【趣旨】竹田市は平成22年国勢調査で人口24,423人、平成17年から8.0%減、65歳以上人口率40.8%・15歳未満人口率9.4%、となっています。年齢別人口率は50年後の日本の状況とほぼおなじです。かつて、まちづくりは住民の自主性や自立性の上に構想され内発的なあり方が強調されていました。その計画は、行政区の枠内で完結していました。しかし、現在のまちづくりは、1)かならずしも産業振興や人口増加を目的としない、2)アーティストや団体・大学等の外部からの支援を受け、多様なアクターによって企画運営、3)一過性のイベントに終わらず外部との交流（時に都市からの移住、着地型観光など）をめざす、といわれます。他方で、こうしたあり方は、目的の明確性・手段の的確さ・成果の明快さを曖昧にしているともいえます。合併後の市町村では様々な住民組織が立ち上がり、活動をはじめたことが評価されていますが、合併特例がなくなり厳しい財政状況が目前です。少子高齢化過疎化の進む地方では、人口増など明確な目標を打ち出せません。また、外部アクターの力がどうしても必要となっています。少子高齢化過疎化のなかで、これからのまちづくりはなにを目的に、どのような方法で、どのように効果をどうみるのか。本シンポジウムでは実際の取り組みを紹介しつつ、協働的な（collaborative）なまちづくりの可能性を追究したいとおもいます。

企画趣旨説明（吉良伸一）

講演（各 15 分）

1. 「まちづくりの変遷と課題」 三浦 典子（日本社会分析学会会長）
2. 「竹田市の現状とまちづくり」 吉良 伸一（大分県立芸術文化短期大学）
3. 「食育によるむらおこし」 佐藤 知博（ハッピーアートカンパニー代表）
4. 「中心市街地のこれから」 河野 通友（竹田商工会議所専務理事）

質疑応答（5 分）

=Coffee Break（5 分）=

コメント（各 10 分）

室井 研二（名古屋大学），奥田 憲昭（日本文理大学）

報告者応答・フロア討論（35 分）

懇親会（18:15～）会場：竹田市公民館竹田分館（旧一味楼）

登録有形文化財（建造物）。竹田商工会議所の隣です。

（会費：有職者 5,000 円、非有職者 3,000 円）

12 月 22 日（日）

自由報告部会Ⅱ（9:30～12:10） 司会：嘉目 克彦（大分大学）

1. 「社会現象としての出生率について」 市原 由美子（熊本大学）
2. 「現代山村における交通の公共性」 鶴田 高士（熊本大学）
3. 「過疎地域における高齢者の生きがいの要因に関する一考察  
－広島県山村の K 地区の調査から」 仲 正人・肥後 加苗（県立広島大学）

=Coffee Break(10 分)=

4. 「新入外国人社員をめぐる職場環境－ある調査技法の試み」 原山 有希（九州大学）
5. 「M・ウェーバーの価値自由と K・マンハイム知識社会学」 小田 和正（熊本大学）

閉 会 12:10